

平成 26 年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、梅雨前線が本州の南海上に停滞することが多くなりました。このため、北日本や東日本日本海側ではおおむね晴れました。一方、西日本や東日本太平洋側では曇りや雨となった日が多くなり、3 日は長崎県で局地的に大雨となりました。沖縄・奄美では、台風第 8 号の影響で大荒れの天気となり、沖縄県名護市名護で 8 日から 9 日にかけての総降水量が 457.5mm となるなど、沖縄本島地方では記録的な大雨となりました。また、台風の北上とともに北上した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけても局地的に大雨となり、長野県では土石流による人的被害が発生したほか、新潟県と山形県では床上・床下浸水等の住家被害が発生しました。

中旬は、11 日に台風第 8 号が関東の東で温帯低気圧に変わり、三陸沖を北東進しました。その後は日本の南で太平洋高気圧が次第に強まり、15 日頃からは梅雨前線が日本海沿岸に停滞しました。このため、東・西日本太平洋側や沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れる日が多く、東・西日本日本海側では梅雨前線の影響で曇りや雨となる日が多くなりました。また、19 日から 20 日にかけては、本州上空に強い寒気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東日本や西日本では局地的に猛烈な雨が降ったところがありました。

下旬は、旬のはじめは全国的に高気圧に覆われ、おおむね晴れましたが、23 日から 24 日にかけては梅雨前線が北日本を南下し、北日本では曇りや雨となったところが多くなりました。25 日から 26 日にかけては全国的に太平洋高気圧に覆われて気温が上がり、猛暑日となったところが多くなりました。27 日には台風第 10 号から変わった温帯低気圧が北日本を通過し、北海道を中心に大雨となりましたが、通過後は移動性高気圧に覆われて全国的に晴れました。沖縄・奄美では、22 日から 23 日にかけて台風第 10 号が先島諸島に接近し、八重山地方では大雨となりました。また 31 日には台風第 12 号が沖縄地方に接近し、沖縄・奄美や九州南部で大雨となりました。

月平均気温は、北日本でかなり高くなりました。月降水量は、沖縄・奄美で多くなった一方、東日本太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多くなりました。

【7 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 81%で、明後日予報は例年値より 1 ポイント高い 76%でした。各地方の適中率では、明日予報は、例年値に比べて、3 地方で 5~6 ポイント高くなりました。明後日予報は、3 地方で 5~7 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.7 となり、沖縄をのぞく全ての地方で例年値と同じか小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では 0.1 小さい 1.1 でした。各地方では、全ての地方で例年値と同じか小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9 月の天気予報の利用にあたって】

9 月は、強い勢力の台風が接近・上陸しやすい月で、前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。また、1 年のうちでも天文潮が高い時期のため、台風の接近に伴い高潮による被害が大きくなることもあります。これまでに日本に大きな災害をもたらした台風の多くは、9 月に日本に接近・上陸しています。

台風が日本付近に接近すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。